

Q. 障害児支援強化のため、体制の見直しを

A. 連携強化・支援の充実に努める



栗田 昌子 議員

Q 豊山町の障害児支援、特に発達障害では、幼児期においては、大変充実している。保健センターやひまわり園(母子通園施設)など、様々な支援、援助が行われている。

しかし、就学してからは、その支援は充分であるとは言い難い。部署によって現状把握や支援対策に対する見解が異なることもある。支援が、より効果的に子どもの成長の助けにな

るよつに、体制を見直す必要がある。そのため次の2点を提案する。

- ①町の関係機関が連携し、情報交換すること。
- ②相談センターを設けること。

支援会議には、学校関係者や保育園も参加して連携を深める方がよいと思う。また、住民が気軽に相談できる窓口として相談支援センターの設置が必要である。

A ①町の発達障害児支援は、乳幼児対象の保健センター「ひまわり園療育指導によるひまわり園療育指導により実施している。また、専門的な支援では、青い鳥医療福祉センターに事業委託し、支援体制の確立に努めている。現在、尾張中部福祉の杜、ひまわり園などの担当者で構成する支援会議を定期開催し、関係機関の連携強

化を図っている。また、障害児個々の事例検討会で、担任保育士や学校関係者の参加を要請する。

②相談支援としては、尾張中部福祉の杜など4相談支援事業所に事業委託を行っている。今後も、障害の種類による専門的な相談支援事業所との連



障害児支援の発信地「ひまわり園」

携強化・支援の充実に努める。現段階では、専門職員の配置が必須で、かつ、相談支援事業所に対応できない事例や人材育成を事業活動とする基幹相談支援センターを町に設置することは考えていない。